

1 調査名称：都心交通のあり方検討調査

2 調査主体：名古屋市

3 調査圏域：名古屋市都心部

4 調査期間：平成19年度～

5 調査概要：

本調査は、名古屋市交通問題調査会答申「なごや交通戦略（平成16年度）」の「都心パッケージ」および「名古屋市都心部将来構想（平成16年度）」実現に向け、都心部において交通施策を戦略的に推進していくため、都心交通のあり方の検討に必要なデータ収集を目的とした、都心部における自動車・歩行者・自転車の実態調査、駐車場利用の実態調査を行ったものである。

- ・都心部交通調査

- 都心部の主要な交差点における自動車交通量調査

- ・都心部交通調査その2

- 都心部の主要路線における歩行者および自転車の断面交通量調査

- ・都心部における駐車施策検討調査

- 都心部の自動車の駐車に関する実態調査

<調査成果>

1 調査目的

名古屋市においては、平成 16 年度に名古屋市交通問題調査会答申「なごや交通戦略」を受け、公共交通と自動車の利用割合を現在の 3 : 7 から 4 : 6 にするという目標達成に向け、各種施策を推進しているところである。なごや交通戦略では各種施策を「都心」、「駅そば」、「広域」のそれぞれに対応したパッケージとして組み合わせ、「都心パッケージ」では、自動車流入の抑制と楽しく歩けるまちづくりを目指している。

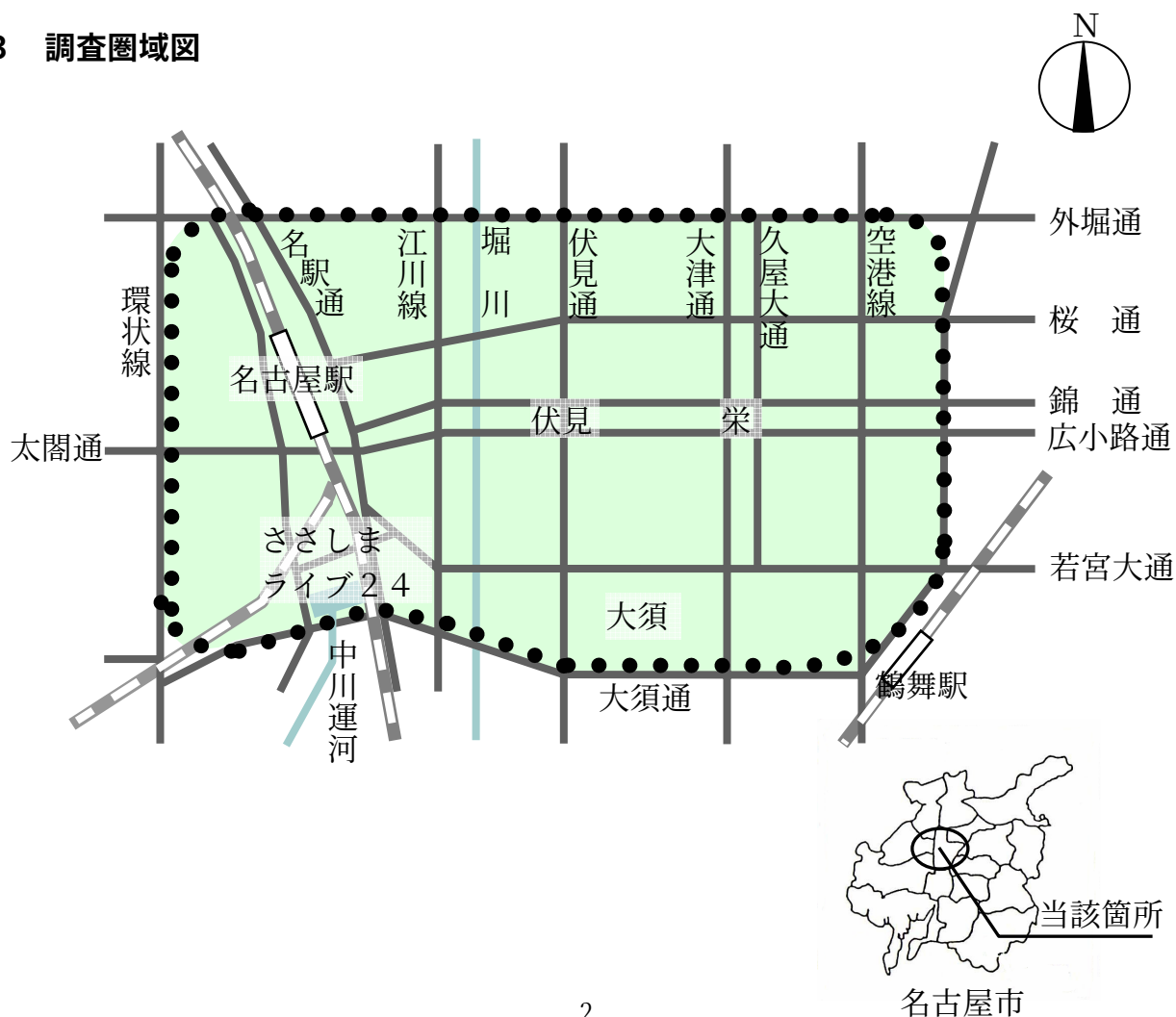
また、本市では長期的な視点に立った都心部の将来像を描き、市民をはじめとする多様な主体が協働してまちづくりをすすめるための共通目標を明らかにすることを目的として、平成 15 年度に「名古屋市都心部将来構想」を策定した。

本調査は、これら「なごや交通戦略」の推進、「名古屋市都心部将来構想」の実現に向け、都心部において交通施策を戦略的に推進していくため、都心交通のあり方について検討するものである。

2 調査フロー

平成 19 年度 実態調査（都心部交通調査、都心部駐車実態調査）の実施
平成 20 年度以降 都心交通のあり方について検討

3 調査圏域図



4 調査成果

4.1 都心部交通調査

(1) 交差点交通量調査

- ・調査日時 平日：平成 19 年 12 月 4 日（火）7:00～19:00
平成 19 年 12 月 6 日（木）7:00～19:00
休日：平成 19 年 12 月 1 日（日）7:00～19:00
平成 20 年 1 月 27 日（日）7:00～19:00
- ・調査箇所数 33 交差点
- ・調査対象 自動車類（乗用車、バス、小型貨物、大型貨物、二輪車）
- ・信号現示調査 朝（7 時～9 時）、昼（12 時～14 時）、夕（17 時～19 時）の各時間帯の信号パターン、信号サイクル、階梯別時刻を調査（33 交差点）

(2) 断面交通量調査

- ・調査日時 平日：平成 20 年 3 月 13 日（木）7:00～19:00
休日：平成 20 年 3 月 16 日（日）7:00～19:00
- ・調査箇所数 29 断面
- ・調査対象 歩行者類（歩行者、自転車）



4.2 都心部における駐車施策検討調査

4.2.1 実態調査の実施

(1) 駐車供給量調査

エリア内の時間貸し駐車場の収容台数を調査した。

(2) 駐車需要量調査

平成17年度道路交通センサス・OD調査の集計結果より算定した駐車需要ピークに基づき、13時～15時に駐車需要調査を実施した。

(3) 調査対象

普通自動車

4.2.2 自動車の需給バランス把握のための調査

(1) 駐車需給バランスの把握

エリア内の自動車の駐車場供給量、駐車需要量に関する実態調査を行い、駐車需給バランスを把握した。

地域の駐車需給バランス

○自動車は、都心部では十分な駐車供給量が確保されている

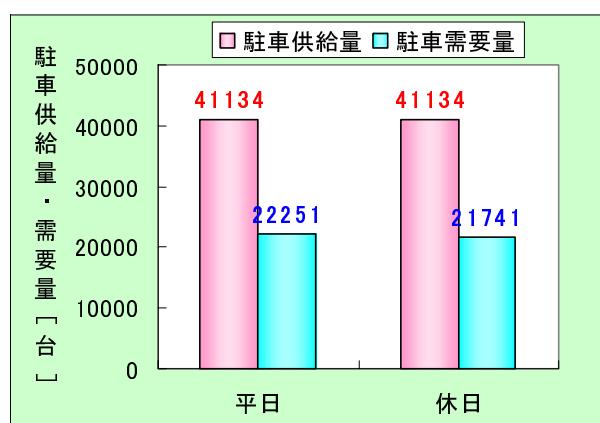


図 都心部全域の駐車需給バランス（自動車）

表 自動車の駐車需給バランス

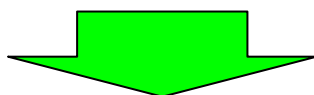
地域	平休	車種	駐車供給量	駐車需要量			駐車需給バランス	
			時間貸し 収容台数	時間貸し 駐車台数	路上 駐車台数	需要計	供給率	不足量
都心部	平日	自動車	41,134	19,131	3,120	22,251	185%	0
	休日	自動車	41,134	19,522	2,219	21,741	189%	0

(2) 駐車需給バランスの確保方策

実態調査結果より把握した駐車需給バランスを基に、都心部における駐車需給バランスの確保方策を以下にとりまとめた。

(都心部における駐車需給バランス)

- 都心部全体では、自動車の駐車需要量に対して十分な供給量が確保されているが、一定のブロックに分けた場合、一部に不足しているブロックがある。
- しかしながら、本調査の結果は平休日のピーク時間帯のものであり、定常的に駐車供給量が不足しているとは限らないことや、都心部全域では需要ピーク時においても十分な駐車供給量を有していることから、特定ブロックの供給量不足を自動車駐車場の整備により解消を図ることは効率的ではないと考えられる。
- そのため、以下に示すようなソフト的な方策により、駐車需給バランスの確保を図ることが適切であると考えられる。



(駐車需給バランスの確保方策)

①公共交通への転換による駐車需要の抑制

- ・都心部は鉄道網が十分発達しているため、これまでも実施しているパーク・アンド・ライド（P&R）等の施策を展開し、自動車利用者の公共交通への転換を促し、駐車需要の抑制を図る。

②的確な駐車場案内による利用平準化

- ・各駐車場の位置や満空情報に加え、混雑時間帯の予測や買物による割引、入庫可能な車両サイズ等の利用者ニーズに合った情報を、カーナビゲーション等の経路上や目的地近傍で容易に参照可能なメディアにより提供することで、駐車場利用及び駐車時間帯の平準化を図る。